

# 健康イベントのための健康データ管理システムの構築

～町ごと元気にしよう！～

応用情報科学研究科 応用情報科学専攻

教授 <sup>たけむらただまさ</sup> 竹村匡正、<sup>いまづたかふみ</sup> ◎M2 今津貴史

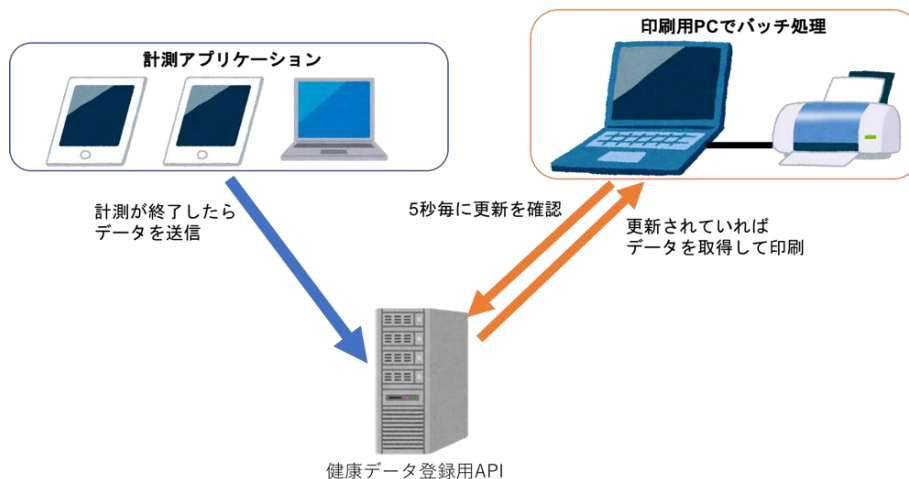
## キーワード

健康イベント、健康データ、先制医療

## 研究概要

現在、日本は総人口に占める高齢者の人口が 27%を超え、超高齢社会に突入している。増え続ける医療費を抑えるために各地で様々な試みが行われている。その一つとして、個人の健康データを継続的に取得し管理・分析することで健康状態を把握し、先制医療につなげる技術やサービスが存在する。

我々は昨年より商業施設と協力して健康イベントを定期的に開催し、健康データを収集している。3つのブースを置きモバイル端末のアプリケーションを用いて、目と耳の年齢・血管年齢・後出し負けじゃんけんゲーム(認知機能測定)の健康データを取得している。これらのデータは利用者の許可を得て、商業施設が発行している会員 ID と紐付けしている。しかし、現状のシステムでは、イベント終了後に手作業でデータを整理しなければならない。また、過去に計測した健康データを利用者に提示することができない。そこで本研究では、健康イベントで計測したデータを管理できるシステムを構築し、時系列データの提供を可能にする。



業でデータを整理しなければならない。また、過去に計測した健康データを利用者に提示することができない。そこで本研究では、健康イベントで計測したデータを管理できるシステムを構築し、時系列データの提供を可能にする。

## アピールポイント

昨年より定期的に開催している健康イベントでは今まで 200 人以上の計測を行い、1000 レコード以上取得した。今後はそれらの健康データを健康状態の把握だけでなく、先制医療に利用し将来の疾患を予測することが期待される。